

## 幼児期における基本的情緒形成とその障害に関する研究

## 幼児期の自己制御機能の発達

## — 思いやり、攻撃性、親子関係との関連 —

分担研究者 森 下 正 康  
(和歌山大学教育学部教授)

**研究要旨** 幼児の自己制御機能の発達をめぐって、思いやりや攻撃性、親子関係との関連について検討した。3歳10ヶ月～6歳10ヶ月の幼児の母親316名を対象に評定を求めた。その結果、(1)自己抑制は「欲求不満耐性」「遅延可能性」「根気」の3因子、自己主張は「正当な要求」「能動性」の2因子から成っていた。自己抑制機能は年中から年長にかけて発達するのに対して、自己主張機能は年齢差がなかった。(2)自己抑制機能が思いやりや攻撃性と関連が深かった。(3)男児の場合、母親の受容的態度が子どもの自己主張機能や、時には自己抑制機能の発達にプラスの影響を与える可能性があった。女児の場合、受容的態度は子どもの自己抑制機能の発達にプラスの影響を、統制的態度や力中心の養育スタイルは自己抑制や自己主張の発達にマイナスの影響をもたらす可能性のあることが明らかとなった。

**■ 研究目的**

新しい時代を生きるために必要なものは何か。それは、豊かな知性や体力と共に、自分で自分の感情や行動を制御する能力(自己制御能力)と人間関係を結ぶ社会性の能力であると考え。子どもたちのなかにそれらが豊かに育つために、私たちは何をすればよいのだろうか。この点を明らかにすることが、一連の研究の最終目標である。

そこで、まず幼児期に自己制御(self-regulation)機能がどのように発達するのかを明らかにしたい。自己制御機能は自己抑制と自己主張(自己表現)の両側面からなると考えられている。柏木(1985)によれば、自己抑制は行動の抑制・制止としての行動制御(調節)の側面であるのに対して、自己主張は自分の意志、欲求を明確にもち、これを外に向かって表し実現するという側面である。

自己抑制や自己主張の因子について、すでに、柏木(1985)は幼稚園場面における担任教師の評定の分析を通じて明らかにしている。自己抑制については遅延可能性、制止・ルールへの従順、フラストレーション耐性、持続的対処・根気の4因子を、自己主張については遊びへの積極的参加、独自性・能動性、拒否・強い自己主張の3因子を見出している。

本研究では、今後の研究のために幼児から小学生や中学生までを視野にいたれた項目を作成し、家庭における幼児の自己制御の発達について検討する。そこでまず、母親の評定に基づいて家庭における

自己抑制や自己主張の因子を明確にし、それぞれの因子が年齢と共にどのように変化するかを明らかにしたい。

社会性の側面については、本研究では思いやり(向者社会的行動へ向かう態度・特性)と攻撃性にライトを当てる。幼児の思いやりについては、すでに検討してきた(森下、1998)ので、自己制御機能に焦点を当てながら、思いやりと攻撃性との関連を検討したい。つまり、思いやりや攻撃性は自己制御機能のどのような側面と関連が深いかにについて明らかにしたいと考える。

第3に自己制御は親子関係のどのような次元と関連が深いかにについて検討する。最後には親子の相互作用を取り上げる必要があるが、本研究では親の養育態度や養育スタイルに焦点を当てる。親の養育態度の主要な次元として、愛情に関する因子(受容・拒否)と行動の統制(統制・自律性尊重)に関する因子が存在する(森下、1991)。また、養育スタイルや養育ストラテジー(Hoffman,1963)が子どもの自己制御の発達に影響すると考えられる。養育態度の介入・過保護に関しては、それが自己制御の発達にマイナスの影響を与えると指摘されてきた(柏木、1985)。命令や脅しを中心とする力中心の養育スタイルは、自己制御の発達にマイナスの影響を与え、説明し自ら考えさせ誘導する養育スタイルはプラスの影響を与えると考えられる。特に、子どもの気持ちや自我に訴えるしつけスタイルは日本の特徴であり、子どもの自己制御、特に自己抑制の側面の発達に大きな影響をおよぼすと

考えられる（東、1994）。

■ 研究方法

1. 調査対象

和歌山市近郊のW幼稚園において、年少・年中・年長児の母親 357 名が調査対象となった。記名式とし、幼稚園の全面的な協力により回収率 100% となった。その中で、記入漏れなどのデータを除いて、分析の対象となったのは、自己抑制や自己主張の項目に関する因子分析では、表 1 に示すように計 316 名であった。自己制御と他の変数との関連についての分析対象は、表 1 の ( ) に示すように計 275 名であった。

表 1 分析の対象数

	男児	女児	計
年少児 (3:10-4:10)	41( 33)	33( 30)	74( 63)
年中児 (4:10-5:10)	61( 50)	53( 47)	114( 97)
年長児 (5:10-6:10)	68( 63)	60( 52)	128(115)
合計	170(146)	146(129)	316(275)

( ) 内の数字は全てのデータがそろった者

2. 手続き

家庭に質問紙を配布し、母親に対して評定を求めた。

3. 調査時期

1999 年 2 月

4. 調査内容

①自己制御に関しては、矢川 (1999) の項目を基に自己抑制については 25 項目、自己主張については 30 項目を作成した (付表 1、2)。この項目の特徴は「・・・ができる」という表現ではなく、「・・・する」とうように行動の側面を評定する表現になっている。「はい」「?」「いいえ」の 3 件法で評定を求めた。

②思いやりと攻撃性：森下 (1985) の項目それぞれ 8 項目ずつをランダムに配列をした (付表 3)。上と同じ 3 件法。

③養育態度の受容と統制：鈴木ほか (1985) から受容と統制についてそれぞれ 8 項目ずつ選択しランダムに配列した (付表 3)。3 件法。

④養育スタイル：末田・庄司・森下 (1985) の研究結果から 10 場面を選び、それぞれ「統制・無視」と「協調性」の態度を表す項目をそれぞれ 10 項目ずつ選出した (付表 4)。そして、力中心養育スタイルと誘導的養育スタイルの尺度とした。

■ 研究結果

1. 自己抑制と自己主張の発達の变化

まず、自己抑制 25 項目について主成分分析をおこない固有値の変動から因子数を 4 と決め、続いて主因子分析をおこない最終的に斜交因子解を得た。そのうち  $\alpha$  係数の高かった第 1 因子 (欲求不満耐性:0.972)、第 2 因子 (遅延可能性;0.780)、第 3 因子 (根気:0.723) についてそれぞれ 5 項目からなる尺度を作成した (表 2)。尺度間には正の相関 (0.288-0.383) があったので、その総得点を自己抑制の得点とした。

表 2 自己抑制の因子と項目

第 1 因子 (欲求不満耐性：我慢できる)

1. 先生や友だちの話を終わりまでしっかりと聞く。
2. 「してはいけない」といわれたことは、しない。
3. 人のものを勝手にさわったり、使ったりしない。
4. 先生が話しているとき、退屈するとよそ見をしたり手遊びをする。\*
5. 面白くなくても、終わりまでだまって人の話を聞く。

第 2 因子 (遅延可能性：待てる)

1. 遊んでいるとき、きちんとルールを守れる。
2. 遊びの時、自分の順番がくるまで待てる。
3. 自分の使いたい遊び道具を、かわりばんこに使える。
4. 欲しいものがすぐ手に入らなくても、がまんできる。
5. 「あとにしろさい」いわれれば、待てる。

第 3 因子 (根気：最後までがんばる)

1. 時間がかかっても、最後までがんばる。
2. けがをしたり、少しぐらい血が出たりしても泣かない。
3. ちょっと失敗したりうまくいかないと、すぐあきらめる。\*
4. やりたくないことでも、やらないといけなときはやる。
5. 難しいことでも、あきらめずにやる。

\* 逆転項目

次に、自己主張 30 項目について同様の分析をした結果、斜交 5 因子解が得られた。そのうち第 1 因子 (正当な要求) と第 2 因子 (能動性) の  $\alpha$  係数がそれぞれ 0.981、0.731 と高かったので、各 7 項目からなる尺度を作成した (表 3)。尺度間の相関 (0.578) は高かったので、その総得点を自己主張得点とした。

自己抑制と自己主張の得点分布は図 1、2 のとおりであった。いずれの分布も右側に偏っていて、平均値 (SD) はそれぞれ 21.0(5.39)、20.3(5.53) と高い値となっている。

自己抑制得点について年齢別の平均値を図 3 に示す。3 (学年) × 2 (性別) の分散分析の結果、学年差のみが有意であった (F(2,269)=8.91, p < 0.001)。そこでチューキーの法により多重比較を

表3 自己主張の因子と項目

第1因子(正当な要求)

1. いやなことは、はっきり「いや」という。
2. 友だちにいじわるされたり、いやなことをいわれたとき「やめて」という。
3. 遊んでいるとき、ずるいことをした子に「だめ」という。
4. ひどい悪口を言われたり、からかわれたとき怒る。
5. 自分の席に座っている子にのいて欲しいとき、「のいて」という。
6. 自分の番に誰かが割り込んできたとき、「順番を抜かさないで」という。
7. 自分のものをとられたとき「かえして」という。

第2因子(能動性)

1. してほしいこと、欲しいものをはっきり大人に頼む。
2. 他の人と意見がちがっていても、自分の意見を言う。
3. 自分の思ったことを、みんなの前でなかなか口に出していけない。\*
4. 進んで手をあげて発表する。
5. 入りたい遊びに、自分から「いれて」という。
6. いやなことを言われたりされたりしたとき、泣いたり黙ってしまったりする。\*
7. 人に聞かれたら、はきはき答える。

\* 逆転項目

おこなったところ、年少児と年中児の間には有意差はないが、年少児と年長児、年中児と年長児の間に有意差があった。つまり、自己抑制機能は年中から年長にかけて発達すると考えられる。さらに、因子ごとに検討した結果、第1因子(欲求不満耐性)と第3因子(根気)については上記と同じような結果であった。第2因子(遅延可能性)についてはその変化が緩やかで、年少児と年長児との間においてのみ5%水準で有意差があった。

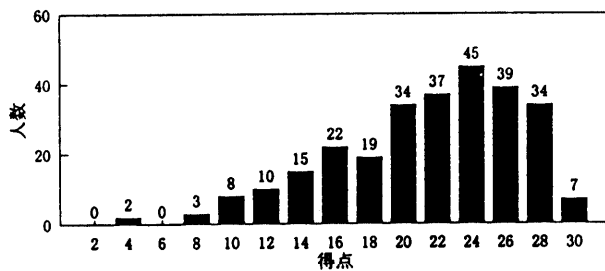


図1 自己抑制の得点分布

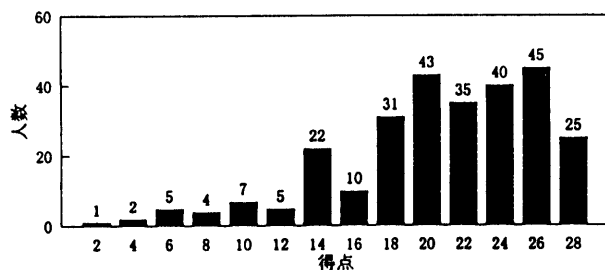


図2 自己主張の得点分布

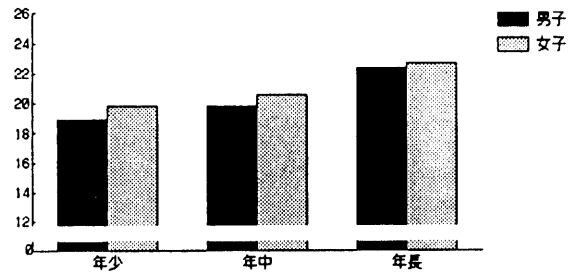


図3 自己抑制機能の発達

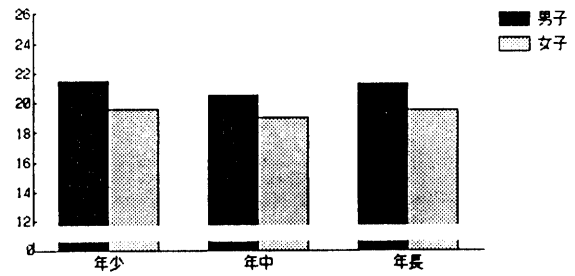


図4 自己主張機能の発達

自己主張は、図4に示すように男子の方が女子よりも得点が高かった( $F(1,269)=6.45, p<0.05$ )が、年齢差はなかった。各因子ごとにみていくと、性別差は第1因子(正当な要求)ではなく第2因子(能動性)においてのみ有意で、男子の方が得点が高かった。

2. 自己制御と思いやり、攻撃性

年中児と年長児についてそれぞれ男女別に、自己抑制、自己主張の各尺度の中央値を用いてH群とL群に分類し、それぞれの群について思いやりと攻撃性の得点を比較した。年少児はデータ数が少なかったため、このような分析はしなかった。

年中児の各群における思いやり得点を図5に示す。男女別に2(自己抑制H・L)×2(自己主張H・L)の分散分析をおこなったところ、男子にのみ有意な結果が得られた。思いやりについて図5のように、交互作用はないが、自己抑制と自己主張の両要因共に有意差があった。つまり、自己抑制の高い群の方が思いやり得点が高く、さらに自己主張の高い群の方が思いやり得点が高かった。したがって、年中の男児においては、自己抑制と自己主張の両方とも高い者(HH群:自己制御機能の高い者)が思いやりが強く、その反対に両方とも低い者は思いやりが低いといえる。攻撃性については、図6が示すように、男子のみ自己抑制の高い群の方が有意に得点が低かった。

年長児の各群における思いやり得点を図7に示

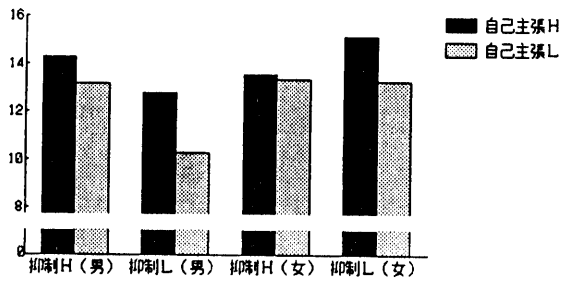


図5 思いやり(年中:男/女)

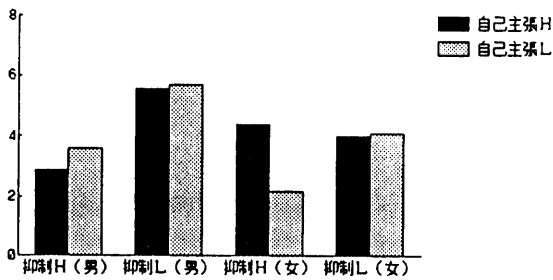


図6 攻撃性(年中:男/女)

す。男女別に2(自己抑制H・L)×2(自己主張H・L)の分散分析をおこなったところ、男女共に自己抑制の高い群の方が低い群よりも有意に思いやり得点が高かった。自己主張の要因には有意差はなかった。それに対して攻撃性は、図8に示すように、男女共に自己抑制の高い群の方が得点が有意に低かった。ここでも自己主張の要因には有意

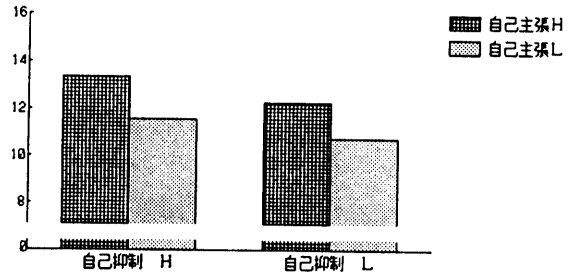


図9 受容(年中:男)

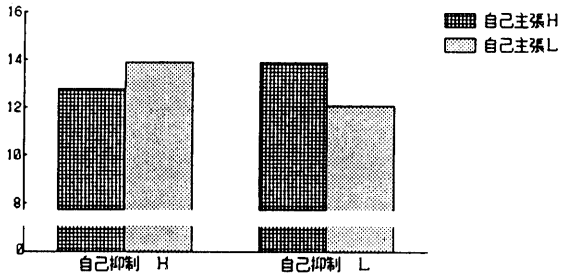


図10 受容(年長:男)

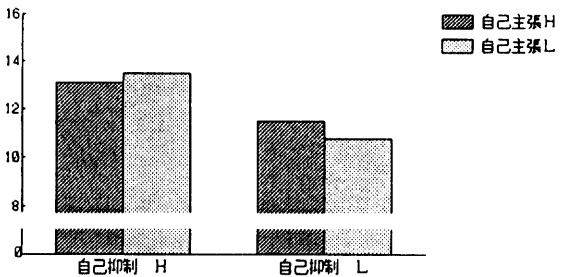


図11 受容(年長:女)

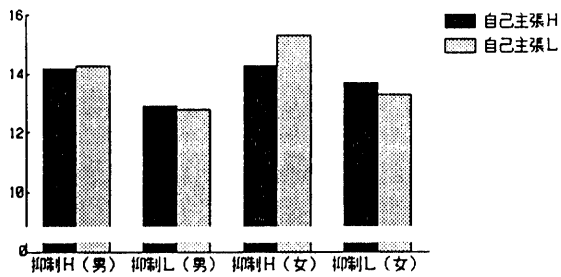


図7 思いやり(年長:男/女)

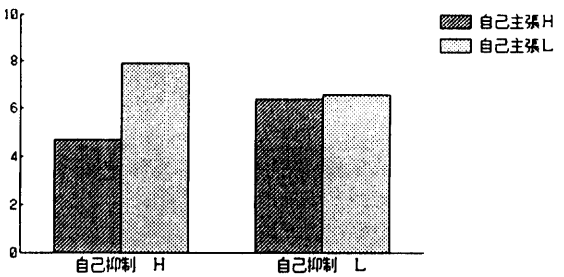


図12 統制(年長:女)

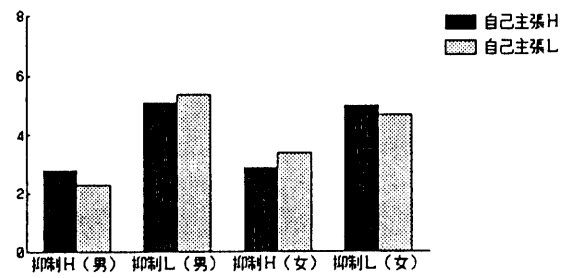


図8 攻撃性(年長:男/女)

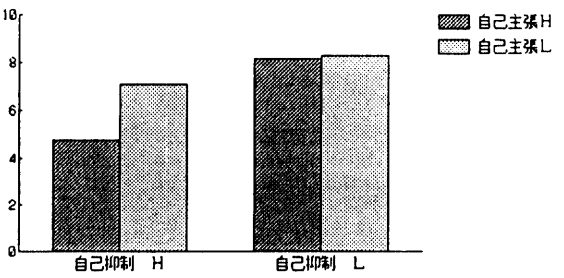


図13 力中心(年長:女)

差はみられなかった。

### 3. 親子関係と自己制御

自己抑制・自己主張と母親の養育態度・養育スタイルとの関連について分析した。

男子について、受容的態度に関して、年中児の場合、図9に示すように、交互作用はなく自己主張の高い群の方が母親の受容得点が高かった。

自己抑制には有意差がなく交互作用も有意ではなかった。年長児の場合、図10に示すように、交互作用が有意で、自己抑制が高く自己主張の低い群(HL)と、自己抑制が低く自己主張が高い群(LH)は母親の受容得点が高かった。その他の変数に関しては有意差はなかった。

女子について、年中児ではいずれの変数についても有意差がなかった。年長児の女子の場合、受容的態度について、図11に示すように自己抑制の高い群の方が母親の受容得点が有意に高かった。統制的態度について、図12のように、交互作用が10%水準で有意であった。つまり、自己抑制の高い場合に自己主張の低い群(HL群)の母親の統制得点が高く、自己主張の高い群(HH群)の母親の統制得点は低かった。力中心の養育スタイルについては、図13のように、自己抑制の高い群の方が低い群よりも母親の力中心得点が有意に低く、特にHH群の得点が低いのが特徴的であった。

## ■ 考 察

### 1. 自己制御の発達

因子分析の結果、自己抑制は「欲求不満耐性」「遅延可能性」「根気」の3因子から成立していた。また、自己主張に関しては「正当な要求」「能動性」の2因子から成っていた。この因子内容は、柏木(1985)の結果とほぼ対応している。したがって、家庭における子どもの自己抑制や自己主張の構造は、幼稚園場面におけるそれと類似していると考えられる。

年齢間の比較結果によると、自己抑制機能は年中(ここでは5歳)から年長(6歳)にかけて発達することが明らかになった。その内容は主として「欲求不満耐性」と「根気」の高まりであった。「遅延可能性」については緩やかな発達がみられた。その様相には特に男女の差はみられなかった。それに対して、自己主張機能は年齢による差はなく、男児の方が女児よりも得点が高かった。その因子内容を吟味すると、性別差をもたらしているのは、「正当な要求」因子ではなく、「能動性」因子の方で

あった。つまり、男児の方が女児よりも能動的であった。

### 2. 自己制御と思いやり、攻撃性

男子について、年中児の場合、自己抑制の高い群の方が思いやり得点が高く、さらに自己主張の高い群の方が思いやり得点が高かった。すなわち、自己抑制も自己主張も共に高い子どもたち、つまり自己制御機能の高い子どもたちは思いやりが豊かだと考えられる。年長児の場合、自己抑制機能の高い子どもたちが思いやりが高かった。したがって、自己抑制が思いやりに対してもつ機能は年齢によって変化しないが、自己主張機能のそれは年齢によって変化していると考えられる。

女子について、年中児の場合は自己制御と思いやりには有意な関連はなかったが、年長児の場合、それが認められた。つまり、年長児の場合は男子と同じように、自己抑制機能の高い子どもたちの思いやり得点が高かった。

以上のように、自己抑制機能の発達が思いやりの発達と関連性が深いと考えられる。他方、自己主張機能の発達も、決して思いやりの発達を阻止するものではなく、時には促進機能をもっているのではないかと考えられる。

攻撃性について、年長児の男女に共通して、自己抑制の高い群の方が攻撃性得点が低かった。自己主張にはそのような関連はみられなかった。したがって、自己抑制機能は攻撃性をも抑制していると考えられる。また、ここでの自己主張は、攻撃性とは異なった別の概念だということが分かる。

### 3. 親子関係の自己制御への影響

男子の場合、年中児では、自己主張の高い子どもたちの方が母親の受容得点が高かった。したがって、年中児の場合、母親の受容的態度が子どもの自己主張機能をはぐくむ可能性がある。それに対して、年長児の場合、自己抑制が高く自己主張の低い子どもたちと自己主張が高く自己抑制の低い子どもたちの母親は受容得点が高かったのである。つまり、母親の受容的態度が子どもの自己抑制を育てる場合と、自己主張を育てる場合に分かれ、必ずしも両方の機能を高めるといえるようには作用しないという可能性がある。したがって、自己抑制と自己主張の機能を両方を高めるためには、もう一つ別の態度次元を考える必要があるのではないかと。

女子については、年長児において、自己抑制の高い子どもたちの方が、母親の受容得点が高かった。したがって、ここでは母親の受容的態度が女児の自

己抑制機能をはぐくむ可能性があると考えられる。女兒に特徴的なのは、統制的態度や力中心の養育スタイルの影響であった。統制的態度は自己抑制の高い子どもの場合、自己主張の発達を阻止する可能性があった。さらに、力中心の養育スタイルは、自己抑制の発達を阻止し、その反対に力中心得点の少なさが自己抑制と自己主張の発達に大きく作用している可能性がある。

#### 4. 研究の問題点と今後の課題

本研究においては、子どもの自己制御等については母親の評定に基づくものであった。したがって、子どもの自己制御等についての母親の評定が信頼性の高いものであったかどうか問題となる。調査が記名式であったので、よく見せようとする動機が働いたかも知れない。さらに、母親の養育態度等も母親自身の評定に基づくものであり、子どもの変数と母親の変数間の関連を分析した結果には、同一評定者による反応セットなどの影響が反映されている可能性がある。

また、このような調査的研究法では、親の態度が子どもに影響したのか、それとも子どもの特徴が親の態度に影響したのか、そのような因果関係を明確にできないという限界がある。

さらに、子どもの発達にとって父親の影響は重要である。したがって、家庭のなかでの子どもに対する母親と父親の役割、その機能が子どもの自己制御機能の発達にどのような影響を与えるかを明らかにすることが、残された重要な課題である。

家庭での子どもの特徴はそのまま幼稚園等での行動に現れるのか、それとも違うのか。両者が一致する子どもと一致しない子どもがいるとすれば、それはどうしてか。子どもの自己制御機能が発達するためにはどのような経験が必要なのか、さらに周りからのどのような援助が必要なのか、多くの課題が残っている。

したがって、次に幼稚園等での子どもの行動に

焦点を当て、担任教師等からの評定や行動観察に基づいて研究を進めたいと考えている。

#### ■ 結論

人間が豊かに生きていくために、自己を抑制する能力と自己を主張する能力のバランスのとれた発達が重要だと考える。幼児の自己抑制は「欲求不満耐性」「遅延可能性」「根気」の3因子から成っていた。また、自己主張は「正当な主張」と「能動性」の2因子から成っていた。これらは自己制御にとって重要な因子である。

自己制御機能の発達について、自己抑制機能のうち「欲求不満耐性」と「根気」は年中から年長にかけて発達することが明らかとなった。自己主張機能の方は4歳以後すでに年齢による変化はなく、男児の方が女兒よりも「能動性」の得点が高かった。

これらの自己制御機能の中で、自己抑制機能の発達が「思いやり」の発達と関連性が深いということ、さらに自己主張機能も、時には「思いやり」の発達を促進する可能性があるということが明らかとなった。また、攻撃性には自己抑制機能が深く関連している。

自己制御の発達に対して母親の果たす役割について検討した結果、男児の場合、母親の受容的態度が子どもの自己主張機能の発達にプラスの影響を与える可能性がある。また、時には自己抑制の発達にも影響するが、両機能の発達に同時にプラスの影響を与える態度パターンは明確にはならなかった。女兒の場合、母親の受容的態度が自己抑制機能の発達にプラスの影響をもたらす可能性がある。他方、統制的態度や力中心の養育スタイルは自己抑制や自己主張の発達にマイナスの影響もたらす危険性がある。

(付記) 調査にご協力くださいました和歌山県W幼稚園の先生方や保護者の方に深く感謝いたします。

付表 1

お願い

子どもたちが新しい時代を豊かに生きるために、私たちは何をしたらいいのでしょうか、そのようなことについて研究しています。そこで、このアンケートにご協力していただけませんか。研究結果は、全体として分析しますので、個人の名前が出ることはありません。よろしくお願ひいたします。

和歌山大学教育学部 教授 森下正康

ふだんのお子さんの様子について、ありのままにつけてください。

(できればお母様が記入してください)

記入者 (母親・父親・その他 ( ))

お子さんの名前 \_\_\_\_\_ (男・女)

クラス (年長・年中・年少) \_\_\_\_\_ 組 満 歳 \_\_\_\_\_ ヶ月

お子さんについて、当てはまるところに○をしてください。

は ? い いえ  
い

- (例) 朝起きたら、すぐに顔を洗う。 -----
- 1 時間がかかっても、最後までがんばる。 -----
  - 2 たたかかれても、すぐにたたきかえさない。 -----
  - 3 あそんでいるとき、きちんとルールを守れる。 -----
  - 4 腹が立ったら、ものをほったりけったりする。 -----
  - 5 あそびのとき、自分の順番がくるまで待てる。 -----
  - 6 自分の使いたいあそび道具を、かわりばんこに使える。 -----
  - 7 ほしいものがすぐ手に入らなくても、がまんできる。 -----
  - 8 だれかに注意されなくても、きちんと順番にならべる。 -----
  - 9 先生や友だちの話をおわりまで、しっかり聞く。 -----
  - 10 「あとにしなさい」といわれれば、待てる。 -----
  - 11 ほかの子の話を、おわりまで聞いてから、自分が話をする。 -----
  - 12 「してはいけない」といわれたことは、しない。 -----
  - 13 けがをしたり、すこしぐらい血がでたりしても泣かない。 -----
  - 14 人のものをかかってにさわったり、使ったりしない。 -----
  - 15 自分には、損をすることでも、友だちのためにゆずれる。 -----
  - 16 自分が使ったものは、もとのとおりがたずける。 -----
  - 17 ちょっと、失敗したりうまくいかないと、すぐにあきらめる。 -----
  - 18 やりたくないことでも、やらないといけないときはやる。 -----
  - 19 すこしぐらい、いたずらされても怒らない。 -----
  - 20 先生が話しているとき、退屈するとよそ見をしたり手あそびをする。 -----
  - 21 いやなことをいわれても、言い返したり怒ったりしない。 -----
  - 22 人が見ていないとき、ルールを守らないときがある。 -----
  - 23 むずかしいことでも、あきらめずにやる。 -----
  - 24 おもしろくなくても、おわりまでだまって人の話を聞く。 -----
  - 25 勝ち負けのあるゲームで負けたら、怒ったり文句を言ったりする。 -----

付表2

子どもさんのことについて	は い	?	い い え
1) いやなことは、はっきり「いや」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2) してほしいこと、欲しいものをはっきり大人にたのむ。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3) ふざけている子に「きちんとして」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4) ほかの人と意見がちがっていても、自分の意見をいう。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5) 友だちにいじわるされたり、いやなことをいわれたとき「やめて」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6) あそんでいるとき、ずるいことをした子に「だめ」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7) それはちがうと思っても、なかなか相手にいえない。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8) けんかをしている子に「けんかをやめて」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9) あそびたくないとき、「あそべない」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10) ひどいわる口をいわれたり、からかわれたとき怒る。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11) 自分の思ったことを、みんなのまえでなかなか口に出していえない。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12) なにかしていて分からないとき、「教えて」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13) 忘れ物をしたとき、「かして」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14) 自分の席に座っている子にのいてほしいとき、「のいて」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15) 早く帰らないといけないのに、友だちに「まっけて」といわれたら、 いやとはいえない。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16) 自分の番に、だれかがわりこんできたとき「順番をぬかさなで」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17) 意味がわからないとき、わかるまで質問する。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18) すすんで手をあげて、発表する。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19) 一人でできないとき、「てつだって」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20) しんどいとき、自分から「休ませて」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21) はいりたいあそびに、自分から「いれて」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22) よいことや正しいと思うことはすすんでいったり、したりする。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
23) 自分のものをとられたとき「かえして」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
24) 楽しかったことやうれしかったことがあったとき、すすんで話をする。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
25) やりかたが分からないとき、自分から「どうするの」ときく。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
26) いやなことをいわれたりされたりしたとき、泣いたり黙ってしまったりする。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
27) 自分がわるくないのにしかられたとき、「ちがう」という。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
28) 人に聞かれたら、はきはきこたえる。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
29) こまったことがあっても、じぶんから人に話せない。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
30) どうしていいか分からないことは、だまっていなくて人に聞く。-----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

裏にも記入してください



付表 3

子どもさんのことについて	は い	?	い え
1 素直である			
2 めんどろみがよい			
3 友だちやきょうだいとよくけんかをする			
4 言葉づかいがあらう			
5 親のいうことをきかない			
6 年下の子どもをかわいがる			
7 気が優しい			
8 生き物をよくかわいがる			
9 すぐ暴力をふるう			
10 友だちをつねったり叩いたりする			
11 お母さんのお手伝いをよくする			
12 物を乱暴にあつかう			
13 友だちに対して親切である			
14 気に入らないことがあると暴れる			
15 思いやりがある			
16 自分より小さい子どもをいじめる			

あなたは、子どもさんに対して、ふだんどのように接してられるでしょうか。ありのままにお答えください。

	は い	?	い え
1 子どもの悩みや心配事を理解している			
2 子どものした悪いことは、みな何かのかたちで罰を与えるべきだと思う			
3 子どもと一緒に外出や旅行をするのが好きだ			
4 子どもにたびたび話しかける			
5 子どもが外から時間通りに帰ってくるように、いつもさせている			
6 子どもを、自分の言いつけ通りにしたわがせている			
7 子どもが怖がっている時には安心させてやる			
8 うちで子どもと楽しい時間を過ごす			
9 子どもに、何事もどんなふうにしたらよいかを事細かに言い聞かせる			
10 子どもが喜びそうなことをいつも考えている			
11 子どもがすべきことをちゃんとしてしまうまで、何回でも指示する			
12 子どもにはできるだけ私の考え通りにさせたい			
13 子どもが言いつけ通りにするまで、子どもを責め立てる			
14 子どもに、自分のことに充分気を配っている			
15 自分のことは我慢しても、子どものためにしてやることがよくある			
16 子どもに、自分で物事を決めさせることはあまりない			

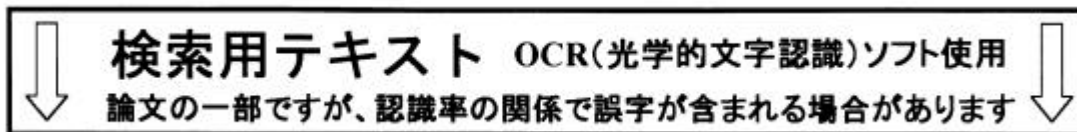
付表 4

家庭の中で次のような場面が生じた時、  
あなたは子どもさんに対してどのように対応していますか。

例えば次のように言うことが、日ごろ、どの程度ありますか。  
当てはまるところに○をしてください。

	よくある	ときどきある	あまりない
1 『夕食の用意ができていのに、遊びに行ったまま帰ってこず、呼びにいくと「もっと遊んでいたい」と言い張った時』 (1) 「ご飯だからだめです、早く帰ってきなさい」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 「また明日遊ぼうね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 『気分が悪くて寝ているところに、子どもが帰ってきた時』 (3) 「しんどいからじぶんでやってね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 「しんどいからしずかにしなさい！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 『すぐ帰るからと留守番を頼んで出かけたけれど用事が長引き、急いで帰ってみると、そこらじゅう散らかしたまま遊びにいつってしまった時』 (5) 「今度からは気をつけてね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(6) 「ちゃんと留守番してなきゃだめでしょ！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 『さわらないように注意しておいたのに、大切な預かり物を、子どもがさわって壊してしまった時』 (7) 「だから言ったでしょ、どうするの！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(8) 「これからは気をつけようね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 『子どもと一緒にどこかに行く約束をしてあったのに、急用ができてしまった時』 (9) 「ご用ができたからしかたないでしょ！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(10) 「また、今度にしようね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 『用事で外出したため、夕食の準備が遅くなり、急いでしたくをしていのに、「おなかすいた、何か欲しい」などと邪魔ばかりする時』 (11) 「すぐできるから我慢してね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(12) 「邪魔しないであっちへ行っってなさい！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 『他にもたくさん買い物があったので、子どもと約束していたおもちゃを買ってくるのを忘れた時』 (13) 「我慢しなさい！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(14) 「明日買ってくるから我慢してね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 『部屋のすみにほったらかしになっていたおもちゃを、お母さんがうっかりとふみつぶした時』 (15) 「こんなところにおいておくからでしょ！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(16) 「これからはちゃんと片づけようね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 『お手伝いを頼んだのに、「いやだなあ」と言って手伝おうとしない時』 (17) 「手伝ってくれると助かるんだけどね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(18) 「どうしてできないの、もう大きいんでしょ！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 『掃除の時、出しっぱなしのおもちゃをかってに片づけてしまったが、後で子どもがやりかけたのにと不満顔の時』 (19) 「約束の時間には片づけようね」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(20) 「さっさと片づけないでほっておくからでしょ！」 -----	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ありがとうございました。付け落としがないかどうか、見直してください。



研究要旨 幼児の自己制御機能の発達をめぐって、思いやりや攻撃性、親子関係との関連について検討した。3歳10ヶ月~6歳10ヶ月の幼児の母親316名を対象に評定を求めた。その結果、(1)自己抑制は「欲求不満耐性」「遅延可能性」「根気」の3因子、自己主張は「正当な要求」「能動性」の2因子から成っていた。自己抑制機能は年中から年長にかけて発達するのに対して、自己主張機能は年齢差がなかった。(2)自己抑制機能が思いやりや攻撃性と関連が深かった。(3)男児の場合、母親の受容的態度が子どもの自己主張機能や、時には自己抑制機能の発達にプラスの影響を与える可能性があった。女兒の場合、受容的態度は子どもの自己抑制機能の発達にプラスの影響を、統制的態度や力中心の養育スタイルは自己抑制や自己主張の発達にマイナスの影響をもたらす可能性のあることが明らかとなった。